

中央西農業振興センター 農業改良普及課

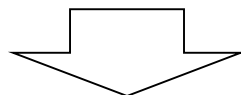
外部評価対象所属の概要

管内市町村 管内 J A	土佐市、いの町 J A 高知県仁淀地区土佐市営農経済センター J A 高知県仁淀地区コスモス営農経済センター(伊野支所、吾北支所)						
産地の特徴 主な園芸品目	・管内は、仁淀川河口部の海岸部から県境の山間地に位置し、多様な農業が営まれている。 温暖な海岸部から仁淀川中流域では、施設園芸（野菜、果樹、花卉）が盛んで、ショウガ等の露地野菜や土佐文旦、小夏等の特産果樹も栽培されている。 一方、中山間地域では柚子や露地ショウガ、露地ニラに加え白芽芋等が栽培されている。また、直販所向けの農産物も栽培され、農産加工品の製造も行われている。 ・主な園芸品目としては、施設ピーマン、施設メロン、施設キュウリ、ユリ、ショウガ、青ネギ、土佐文旦、小夏等がある。						
人員配置 令和元年度 12名 令和2年度 11名 令和3年度 12名	令和4年度職員総数 12名（うち実務経験が3年未満の職員0名） <table border="1"> <tr> <td>農業改良普及課長</td><td>1名</td></tr> <tr> <td>地域営農担当</td><td>チーフ1名 普及指導員 4名 (担当エリア：全域)</td></tr> <tr> <td>産地育成担当</td><td>チーフ1名 普及指導員 5名 (担当エリア：全域)</td></tr> </table> ※令和元、3、4年度については、育休代替による1名の暫定配置	農業改良普及課長	1名	地域営農担当	チーフ1名 普及指導員 4名 (担当エリア：全域)	産地育成担当	チーフ1名 普及指導員 5名 (担当エリア：全域)
農業改良普及課長	1名						
地域営農担当	チーフ1名 普及指導員 4名 (担当エリア：全域)						
産地育成担当	チーフ1名 普及指導員 5名 (担当エリア：全域)						
普及活動の 進捗管理	・重点課題については、毎月チーム会（チーフ、課長含む）を開催し、取組の進捗状況や手法、今後の活動に向けた役割の再確認等を行いながら進捗管理している。 ・一般課題については、課題担当者が毎月開催している職員会で隔月に計画に対する進捗状況等を報告し、他の職員や上司、専技等からのアドバイスを受け、目標達成に向けた取り組みを確認している。 ・加えて四半期毎には、取りまとめた活動実績(進捗状況)を職場内で共有するとともに、目標達成に向けた課題や問題点等の解決方法や今後の活動についてチーム会等で協議している。併せて環境農業推進課にも報告し、必要に応じて指導助言を受けている。 ・市町や J A 等の関係機関とは、連絡会や担い手育成協議会幹事会等で方向性の確認を行っている。						

職員の資質向上 の取組状況	●職場研修 ・ <u>会計の仕組みと農家経営支援について(講義)</u> 会計を活用した農業経営管理と分析手法等が理解された。 ・ <u>普及事業と関連がある知的財産権について(講義)</u> 「改正種苗法」等普及事業に関連した知的財産について理解が進んだ。 ・ <u>基盤整備課と連携した普及活動について(講義&現地研修)</u> いの町北浦地区での農地耕作条件改善事業を活用したショウガほ場の灌がい施設の整備状況とその機能、役割等が理解された。基盤と普及事業との連携強化が期待される。 ・ <u>データ駆動型営農指導とBIツール(Tableau)活用術について(講義)</u> データを活用した営農指導の確認と Tableau によるデータ可視化の基本的な手法が理解された。 ●新任者を対象にしたOJT ・ 令和3年度、新任者(3年目未満)0名 ●国段階研修(令和3年度) <table border="1" data-bbox="443 1041 1423 1142"> <thead> <tr> <th>研修名</th><th>人数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>該当無し</td><td>0名</td></tr> </tbody> </table> (参考) 令和2年度の参加人数 1名 ●県段階研修(令和3年度) <table border="1" data-bbox="443 1299 1423 1400"> <thead> <tr> <th>研修名</th><th>人数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>花き担当普及指導員の主要花き栽培技術指導能力の向上</td><td>1名</td></tr> </tbody> </table> (参考) 令和2年度の参加延べ人数 2名 上記の他に、県内普及指導員専門技術高度化研修などへ参加 基礎研修 野菜Ⅰ・Ⅱ：2名 経営担い手：1名 高度化研修 普通作物Ⅰ：1名 花き：1名 スマート農業Ⅰ・Ⅱ：4名 病害虫：1名 6次Ⅰ：1名 GAP：1名 集落営農：1名 新任者研修 普及指導活動：1名 特用林産研修：2名	研修名	人数	該当無し	0名	研修名	人数	花き担当普及指導員の主要花き栽培技術指導能力の向上	1名
研修名	人数								
該当無し	0名								
研修名	人数								
花き担当普及指導員の主要花き栽培技術指導能力の向上	1名								
タブレット等 ICT技術の活 用状況について	・ 労働力確保対策における農作業動画の撮影・編集・求職者情報アップ ・ オンライン会議、研修 ・ ハウス内環境データの確認共有(SAWACHI、Thermo Rec)や土壌還元処理ほ場の確認、マッピングなど								

外部評価対象課題の普及実績（3年度）及び計画（4年度）の概要

所属名	中央西農業振興センター農業改良普及課														
課題名	仁淀川流域のショウガの生産安定														
取組期間	令和3年度(2年度から一般課題として実施)														
対 象	JA 高知県土佐市生姜部会 87 人 JA 高知県伊野支所まるい生姜部会 55 人														
ねらい	1 土佐市地域の生産安定 ○土壌病害防除対策の徹底及び異常株早期発見技術の検討 主幹品目である露地ショウガは土壌病害が深刻化しており、健全農地の確保と土壌病害の早期発見技術の確立が急務となっている。 2 いの町地域の生産安定 ○市場事故対策支援体制の強化及び土壌病害防除対策の周知 土佐市地域と同様に健全農地の確保に加え、JA 高知県伊野支所集出荷場貯蔵施設で市場事故が発生しているため、安定出荷に向けた栽培指導も含む支援体制の強化が必要となっている。														
令和3年度の主な実績	○土壌還元処理実施ほ場数がほぼ目標の26ほ場(目標対比90%)と増加した。 ○地域版土壌還元処理マニュアルが作成できた。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th><th>現状 (R2)</th><th>目標 (R3)</th><th>実績 (R3)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>還元処理実施ほ場数(累積)</td><td>17 ほ場</td><td>27 ほ場</td><td>26 ほ場</td></tr> <tr> <td>地域版土壌還元処理マニュアルの作成</td><td>—</td><td>マニュアル作成</td><td>マニュアル作成</td></tr> </tbody> </table>			項目	現状 (R2)	目標 (R3)	実績 (R3)	還元処理実施ほ場数(累積)	17 ほ場	27 ほ場	26 ほ場	地域版土壌還元処理マニュアルの作成	—	マニュアル作成	マニュアル作成
項目	現状 (R2)	目標 (R3)	実績 (R3)												
還元処理実施ほ場数(累積)	17 ほ場	27 ほ場	26 ほ場												
地域版土壌還元処理マニュアルの作成	—	マニュアル作成	マニュアル作成												
令和3年度の主要な活動内容と実施時期	1 健全農地確保に向けた取組の推進(土佐市及びいの町) 1) 土壌還元処理の推進 ・JA や部会役員等を交えて、地域版処理マニュアルを検討 (5～3 月) ・土壌還元処理方法について、JA と連携した個別指導を実施 (4～12 月) ・土壌還元処理の実証ほを設置し、JA・生産者と連携して調査 (6～9 月) ・土壌還元処理等の病害対策徹底のための勉強会を開催 (7 月、12 月) 2) ドローンを活用したほ場監視技術の確立 ・生産部会、JA、関係者を交えた土佐市ショウガスマート農業協議会で、令和3年度の取組を協議決定(8 月 ※書面決議) ・効果的な技術開発に向け、管内及び農業技術センターほ場で空撮調査を実施(6～9 月) ・ドローン空撮による異常株早期発見技術の確立に向け、農業革新支援専門員、研究機関等と連携した解析検討会を実施(9～12 月) 2 安定出荷に向けた指導体制の強化(いの町) ・高吾農業改良普及所及び JA と連携した出荷場 GAP 点検と PT 会での共有・検討(4～3 月) ・JA 高知県とさし営農経済センターとも連携した個別巡回指導(4～12 月) ・PT 会活動を講習会で生産者に周知(7 月、12 月)														



令和4年度の主な目標	○土佐市及びいの町地域の更なる生産安定		
	項目	現状（R3）	目標（R4）
	還元処理実施ほ場数(累積) ※土佐市	25 ほ場	32 ほ場
	還元処理実施ほ場数(累積) ※いの町	1 ほ場	2 ほ場
令和4年度の主要な活動内容と実施時期	○土壌病害防除対策の徹底(土佐市及びいの町) ・土壌還元処理方法の周知及び土壌病害防除指導(個別指導：通年 勉強会：5月、12月 実証ほ：7～9月 報告会：1月) ・土壌還元処理マニュアルの改訂及び次作の対策検討(検討会：1月 PT会：2月) ○異常株早期発見技術の検討(土佐市) ・空撮調査及び解析検討会(調査：7～10月 検討会：9月、12月) ・解析技術の共有と次年度計画の検討(検討会：2月) ○市場事故対策支援体制の強化(いの町) ・市場事故防止対策指導、支援(出荷場及び生産者 GAP 点検支援：4～12月) ・市場事故の共有と防止対策の検討(品目 PT 会：4～2月)		
所内体制	産地育成担当：担当者1名、チーフ1名		
連携推進体制の整備	JA土佐市生姜部会 JAまるい生姜部会 土佐市ショガスマート農業協議会 連携・協力 JA仁淀川地区各営農経済センター 中央西農業振興センター 相談 指導・助言 連携 土佐市営農振興協議会 JAコスモス品目PT会(ショガ) 農業革新支援専門員 ・環境農業推進課 ・農業イノベーション推進課 ・農業技術センター		

令和3年度 普及指導活動実績の概要一覧

中央西農業振興センター農業改良普及課

課題名		チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	実績	達成状況	普及活動のふりかえり	チェック欄
重点1	土佐市促成ピーマンの産地振興	4	部会平均反収 (10～1月)	5.6t	5.8t	5.9t	○	若手を中心に現地検討会の参加者が増加し(平均参加人数:実施前H31 8→R3 13人)、「SAWACHI」データを基にベテランと新規就農者との栽培管理に関する情報交換が活発に行われたことなどにより、目標を達成することができた。	
			目標所得の達成農家数(新規就農者)	1/3人	2/3人	1/3人	△	3人とも反収は向上したが、単価低迷や重油高騰等の要因により、目標所得達成農家は1人となった。	
重点2	いの町吾北地域の農業振興	7	冬至用規格の出荷量の向上(ユズ)	12.7t	17t	8.2t	△	出荷量の減少は、収穫や選果場の労働力不足等が要因であったため、省力化の必要性が改めて認識され自動選果機の導入に取り組むこととなった。	
			目標販売額の達成農家数(新規就農者)	2/4人	2/4人	3/4人	○	課題や取組計画を対象者と共有した上で、定植後や生育ステージに応じた栽培管理と病害虫防除指導等を実施したことにより、目標を達成することができた。	
一般1	IPM技術を用いた病害虫防除による促成キュウリ産地の強化	2	黄化えそ病年内発病株率1%未満の農家の割合(%)	75%	77%	91.5%	○	物理的防除に加え薬剤防除を年内に徹底し、年明け後の天敵春放飼を推進することなどにより、黄化えそ病や媒介虫の減少に繋がった。	
一般2	仁淀川流域のショウガの生産安定	1	土壌還元処理実施ほ場数(土佐市・累積)	17ほ場	27ほ場	25ほ場	△	土壌還元処理調査ほの設置や地域版土壌還元処理マニュアルを活用した勉強会に加え、ドローン撮影による異常株の早期発見技術の開発等の取組により、目標をほぼ達成することができた。	
一般3	施設ズッキーニの収量及び品質の向上	1	秋冬期作型(9～1月)の平均反収	2.1t	2.3t	2.5t	○	栽培暦及び出荷規格表を作成すると共に、栽培講習会等を通して基本的な培管理技術指導等により、目標を達成することができた。	

一般4	ユリ産地若手生産者の育成	1	新技術の活用事例数 (累積)	1事例	3事例	3事例	○	ハウス内環境や土壌還元処理調査ほの見える化(温度、湿度、酸化還元電位等)を行い、生産者や関係機関で共有・検討することで、ハウス内温湿度管理の改善や土壌還元処理、測定装置の導入を検討する生産者も出てきた。	
一般5	新規生産者の出荷量向上等による酒米「吟の夢」の生産拡大	1	検査等級(加重平均)	2	1.8	2.1	△	新規生産者への個別指導に加え、実証ほの設置や実需者を交えた検討会などを開催支援した。しかし、収量は増加(前年比111%)したが、悪天候等により品質は低下した。次作では、実需者と連携した低コスト生産に取り組むこととなった。	
一般6	いの町中山間地域における集落営農組織の運営及び設立支援	6	イタドリ出荷量 (集落活動センター柳野)	90kg /10a	300kg /10a	156kg /10a	△	実証ほの設置と併せて、マニュアルに基づき指導することにより増収したが、目標には届かなかった。加工品の開発も含め、引き続き増収に向けて支援を継続する。	
一般7	経営改善等による担い手の育成	9	新規就農者の目標販売額の8割以上の達成農家数	6/7人	6/6人	6/7人	△	課題や取組計画を対象者と共有した上で、定植後や生育ステージに応じた栽培管理と病虫害防除指導等を実施したことにより、新型コロナウイルスの影響により販売額が減少した1名を除き、目標を達成することができた。	
一般8	地域の活性化を目指した加工品開発	2	商品数 (とさし旬物クラブ)	3	4	4	○	6次産業化セミナーアップグレードコースでの商品開発や販売先の一つであるアグリコレットへの商品プレゼン等に行き支援することにより、目標を達成することができた。	

令和4年度 普及指導活動計画の概要一覧

中央西農業振興センター農業改良普及課

課題名		チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	普及活動における主な手法	チェック欄
重点1	土佐市促成ピーマンの産地振興	4	データを基に栽培管理を見直した農家数	6戸	10戸	IoTプロジェクト実証調査(反省会1回、チーム会等4回、個別巡回等)	
			部会平均反収(10～1月)	5.9t	6.0t	データ駆動型農業の実践支援(総会1回、現地検討会2回、個別巡回等)	
			目標所得の達成農家数(新規就農者)	1/3人	2/3人	目標所得達成に向けた技術及び経営管理支援(担い手協幹事会6回、個別面談4回、個別巡回等)	
重点2	いの町吾北地域の農業振興	7	冬至用規格の出荷量の向上(ユズ)	8t	19t	高品質化と安定生産支援(総会1回、講習会1回、役員会3回、個別巡回等)	
			目標販売額の達成農家数(新規就農者)	3/4人	3/3人	目標販売額達成に向けた技術及び経営管理支援(連絡会12回、個別面談4回、講習会6回、個別巡回等)	
			ニラ及び加工用ワサビ販売額(いの町農業公社)	345万円	565万円	事業戦略実践支援(定例会12回、カイゼン実行支援4回、ワサビ育苗試験、ニラ・ワサビ育苗及び栽培個別巡回指導等)	
一般1	IPM技術と労力軽減による促成キュウリ産地の維持・強化	1	黄化えそ病年内発病株率1%未満の農家の割合(%)	91%	92%	ミナミキイロアザミウマ防除の徹底及び省力・軽労化品種の推進(反省会1回、現地検討会4回、調査及び個別巡回等)	
一般2	仁淀川流域のショウガの生産安定	1	土壌還元処理実施ほ場数(土佐市・累積)	25ほ場	32ほ場	土壌病害防除対策の徹底及び異常株早期発見技術の検討(勉強会1回、検討会6回、空撮調査、個別巡回等)	
一般3	施設ズッキーニの収量及び品質の向上	1	秋冬期作型(9～1月)の部会平均反収	2.5t	2.6t	ズッキーニの増収支援(関係機関検討会2回、栽培講習会2回、土作り調査ほの設置、巡回指導等)	
一般4	ユリ産地若手生産者の育成	1	新技術の活用事例数(累積)	3事例	5事例	新技術を活用した高品質栽培技術の検討(ハウス内環境データ及び土壌還元処理実証ほの設置、検討会3回、勉強会及び意見交換会2回、個別巡回等)	
一般5	新規生産者の出荷量向上等による酒米「吟の夢」の生産拡大	1	吟の夢出荷量	47.9t	52.2t	土佐市吟の夢栽培技術研究会への支援(実証ほの設置、勉強会2回、反省会2回、個別巡回等)	

一般6	いの町中山間地域における集落営農組織の運営支援	5	イタドリ出荷量 (集落活動センター柳野)	156kg /10a	190kg /10a	農業部門の活動強化(実証ほ調査、経営記帳研修会4回、イタドリ加工検討会2回、個別巡回等)	
一般7	経営改善による担い手の育成	9	新規就農者の目標販売額の8割以上の達成農家数	6/7人	7/7人	新規就農者へのフォローアップ(サポートチームでの巡回2回、個別巡回、面談等)	

令和4年度普及活動外部評価会
普及事業の外部評価結果及び改善方向に関する助言・提言

中央西農業振興センター農業改良普及課

(○評価会で発表 ●評価表に記載)

評価項目		評価及び感想・ご意見
普及指導活動の体制	・課内（所内）の分担	○少ない人員で目標計画を立て優先順位をつけて取り組んでいる
	・活動の進ちょく管理の体制	●連絡会や幹事会など開催し、毎月の進捗管理ができています
	・普及指導員の資質向上の取組	●幅広い分野で研修が行われている
普及指導活動の計画	・普及課題の設定	○普及推進会議で農家のニーズをくみ取り、できる範囲で実施している ●良い取組なので、うまくいったこと、いかなかったことの要因をしっかりと分析して対策をとること
	・対象の設定	●普及を効率化するため、産地間の協力体制を整えたことは重要
	・関係機関との連携	●PT会などでJA営農指導員との連携が良くとれており、ともに活動している。様々な機関との連携もすすめて欲しい ●体制づくりができていて、問題点の共有、改善策の検討、改善の流れができ、普及活動の効率向上につながっている
	・目標設定	●目標設定のほ場数の選定根拠がわかる情報なども示して欲しい ●成果がでた段階で、普及を加速するため目標を高くもって欲しい
普及指導活動の成果	・活動の経過	●生産者アンケート、産地の実状に合わせた個別指導が実施できている ●熱い思いでがんばっている様子がよく伝わった ●普及指導員と農家との信頼関係ができており、指導や普及内容がスムーズに行われている
	・実績（活動の結果）	○スマート農業は、現状ではデータ分析に時間がかかるため、省力化技術として防除に活用し、個人導入は難しいため共同利用ですすめる ○農家からの信頼が高いことがわかった ○ドローンを積極的に活用できるよう病害発生状況等のデータ解析を続けて、より取り組みやすい方法を確立してほしい
	・成果（目標達成状況）	●課題解決にスマート農業協議会を設立し、PT会メンバーで集出荷場の改善ができた ●地域版土壌還元処理マニュアルなど地域にあったマニュアルを作成したことはすばらしい
	・結果の周知	
外部評価、総合所見等 ○資材や肥料コストの高騰による問題もあるが、連携して乗りきっていただきたい ●現地調査があり、様々な現場を見られて普及指導員の活動がよくわかった。データ処理やデジタル化など普及課が持っている役割が大きいと感じた		